

2011年12月10日

香港のスーパーの食品市場について

上海産業情報センター

横江 隆弘

東日本大震災後、中国大陸への加工食品の輸出が放射能検査及び原産地証明書に係る問題等により、実質ストップされていましたが、最近になりやっと加工食品の通関ができたというニュースが上海では聞こえてきました。これから徐々に日本からの加工食品等が中国に入ってくると思われれます。

愛知県では、今年度「愛知食品フェア」を上海で開催することとしておりましたが、通関及び検疫等の問題から準備が間に合わない可能性も考慮して、香港で同フェアを開催することとしました。この準備のため香港を訪問してきましたので、今回は香港のスーパーの食品市場について報告します。

1 香港の食品輸入の状況・日本の食品について

香港統計局によると、2010年の香港の食品輸入総額は、1,223億香港ドルで、そのうち最大の輸入国は中国であり、総額254億香港ドルに達しており、全体の20.8%を占めており、対前年比10.8%の伸びとなっております。第二位は、アメリカで総額が210億香港ドルで、全体の17.1%を占めています。しかもアメリカからの輸入は、対前年比40.9%の伸びで急増していることを示しています。そして、第三位にブラジルが続き、第四位が日本からの輸入となっております。その総額は、75億香港ドルで全体の6.2%を占めております。

その日本からの輸入については、水産品及び水産加工品が約1/2を占めています。日本からの輸出額でみると、638億円になっています。その他の加工食品は、189億円になっています。

私がうけた印象では、香港で日本食品は、上海でみるより明らかに多くの豊富な日本の食品が販売されています。関税がないために香港での流通はより簡便になっているため、日本にいるのではないかと錯覚するくらいに品揃えが整っています。それだけに参入する企業の方々にとっては、激戦市場と言わざるを得ないでしょう。後発組の参入者にとっては、香港人の嗜好と食に対する行動様式をしっかりと理解した上で、集中と継続を基本とした市場開拓戦略を持った上で市場参入を試みられることが肝心だと思います。あるスーパーのイベントに参加されていた熊本県のお茶の販売マネージャーに聞いたところ、「2010年12月に香港市場に参入して、今回が3回目のイベントの実施になる他、サプライヤーに任せられた販売促進イベントを加えるとすでに片手では足りないイベントを実施しています。」とのことでした。

2 香港のスーパーマーケット市場について

香港のスーパーマーケット市場は、Daily Farm Group と A. S. Watson Co. Ltd. の2社による複占状態で、この部門も売上高の約80%を占めると言われているようです。

因みに、この2社が保有するブランドは次のとおりです。

●Daily Farm Group

スーパーマーケット:Wellcome, Market Place by Jasons, ThreeSixty 等

ドラッグストア:Mannings

コンビニ:7-eleven

家具・雑貨:IKEA

●A. S. Watson Co. Ltd.

スーパーマーケット:Park' n, Taste, Great, Groumet,

ドラッグストア・家電:Watsons, Nuance-Watson, Fortress

この2社以外には、華潤超級市場(CRC)、大昌食品市場(DCH)、CITY SUPER、日系では、APITA(UNY)3店舗、AEON(JUSCO)11店舗、一田(YATA:旧 SEIYU)3店舗があります。これらは、中所得者層・高所得者層をターゲットにしており、日本食品の品揃えはしっかりしています。日本食品だけでなく、韓国食品、台湾食品そして欧米食品など世界中のモノが揃っていると言ったほうが適切かもしれません。市場参入の場合は、世界を相手に戦う覚悟が必要といっても過言ではないと思います。

3 各スーパーの状況について

● 太古城地域 (アピタ & JUSCO)

香港島北東部にある太古城(タイクーシン)は、日本人人口密度高い街であります。そして、日本人の生活には便利なところではありますが、地下鉄太古駅を挟んで、日系スーパーが二つ(アピタとJUSCO)あり、日本スーパーの激戦区にもなっているところです。

① アピタ

太古城にあるアピタは1987年からユニーとして営業を始め、2007年5月に全面改装し、アピタとしてオープンしました。アピタで買い物をしていると、まるで日本にいるようです。お菓子などの日本の食品は当たり前のように買えますし、カステラ、駅弁のような地域特徴のある食品も買うことができます。また、フードコートで、常時に屋台形式で五平餅や広島焼などの実演販売をしていました。

調査した際には、「熊本フェア」が開催されており、現場では熊本から輸入した農産物や乾燥麺類などの商品を展示販売し、お茶の試飲とさつま芋の試食が行われていました。

【アピタ太古店の様子】



② JUSCO (太古店)

JUSCO の食品売り場のフードコートにラーメン山頭火、麻布茶房、どら焼き屋、回転寿司、定食屋等々の店が並んでいました。また、店内に沖縄アンテナショップがあり、沖縄商品が所せましと並んでいました。日本食品のほか、世界中の食品を多数揃え、店舗の東側にある大催事場では常に世界各地の食品フェアを開催しているようで、調査時には「韓国フェア」が開催されていました。同時時間帯のアピタと比べ、客足が多く、レジに長い列ができていました。主に、地元客と欧米客が主流になっているようでありました。

③ アピタと JUSCO のターゲット：

アピタ：香港人、日本人を中心とした中・高所得者層

JUSCO：香港人を中心とした中所得者層

全体からみると、アピタでは日本の商品が豊富であるが、値段は割高であると感じられました。割高ということで、品揃いもそれに相応しい客層を狙っているようで、何となく高級感が感じられました。

一方、JUSCOのフードコートが日系の店舗が中心になったというのも、日本人向けというわけではなくて、やはり香港人に受け入れられるもの考えた結果そのようになったと感じました。

【JUSCO 太古店の様子】



- 銅鑼灣地域（シティスーパー）

銅鑼灣（コーズウェイベイ）のビジネス街には、特に金融関係を中心とした日系企業が多数集まっている。銅鑼灣にあるシティスーパーは日本をはじめ世界各国から高品質な食料品を集めた高級スーパーであり、雑貨類も充実しています。富裕層を中心に高い人気があるようです。フードコートにはお好み焼きやラーメン、寿司など本格的な日本の味を楽しめる店が入っています。冷凍食品コーナーで驚くほどの数多くの日本冷凍食品が並んでいました。また、欧米客層向けに、乳製品とミート製品コーナーの商品も豊富であり、調査時には、「新潟・北陸」フェアが開催されていました。店内商品の値段設定はやや高めで、ターゲットは高所得者層のようです。

因みに、シティスーパーでのイベントは全品買取方式で実施されるとのことであり（値段は結構低く押さえられるらしい）、イベント期間中でありながら、残念ながら同県関係者の姿は見受けられなかったため、お話を伺うことはできませんでした。

【CITY SUPER の様子】



- 沙田地域（一田 YATA）

沙田は香港・新界にある住宅・商業地区であります。沙田駅に隣接したモール「New Town Plaza」にある「一田百貨」の食品スーパーに日本食、食器、レストランがたくさんあります。土曜日ということもあって、午前中からかなりの来客がありました。郊外といえども購買力のすごさを感じることができました。一番印象的なのは、沙田に住んでいる日本人の数がかなり少ないのにかわらず、スーパーでは日本各地から直送してきた新鮮な野菜や果物はたくさん並んでおり、魚の練り物や干し物、そして寿司も種類多く揃えており、日本の食文化はずいぶん地元浸透しているように感じられました。一田スーパーのターゲットは香港人を中心とした中所得者層であるとのことでした。

【一田 (YATA) の様子】



上海産業情報センターでは今後もこれらの状況に注視していきたいと考えております。